

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり

第3回 生息環境づくり部会

議事要旨

あいさつ

出雲河川事務所 今年もガン類、ハクチョウ類が多く飛来し、昨年夏より、コウノトリの飛来も多く確認されている。大型水鳥類のくらしやすい生息環境づくりを検討するこの部会は本日で3回目となる。ワーキングの中で検討した内容を報告し、今後の展開について議論いただければと思う。

議事

(1) 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会 規約の変更について

事務局

(「資料1：斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会 規約の変更について」の説明)

部会長 規約の変更について、本体の規約から、部会関係の所について独立させたということが良いか。

事務局 そのとおり。加えて、この部会の目的や検討事項を明確にした、というところ。

(2) 大型水鳥類に関する最近の動向について (報告)

事務局

(「資料2：大型水鳥類に関する最近の動向について (報告)」の説明)

部会長 最近の大型水鳥の動向について、マガンはほぼ昨年と同じ程度飛来しているか。

委員 マガンについて、宍道湖周辺に約3,000羽程度飛来している。

部会長 ヒシクイは昨年度よりかなり増えて160羽程度、40羽くらい別の群れがこちらに来ている模様。

委員 コハクチョウについて、中海側は安来方面と合わせて1,200羽くらいを確認。オオハクチョウも少数だが確認している。

部会長 結構幅広く鳥類が出現している。コウノトリは各地で確認されているが、一度に確認された羽数は最大で何羽か。

事務局 わかっているものでは、最大 4 羽、昨年 10 月に斐伊川放水路呑口付近で確認されたものの。

委員 3 ページのコウノトリの飛来状況について、斐伊川の放水路付近に多く集まっているように見える。沈砂池はここ一年は恐らく分流はなかったと思うが、それでたまたま土砂が堆積し、大型水鳥にとって良好な環境になったのではないかと考える。

事務局 沈砂池は、コウノトリが多く来る前にもサギ類が多く飛来していた。ここ 2 年ほど分流がないが、背の高い草が生えていて浅い水辺が自然に形成されており、エビ類や小魚が多く確認できた。良好な環境ができている。

部会長 ここは常時、オカヨシガモという少々珍しいカモが 200 羽ほど入っているのが特徴で、重要な場所。ただ、コウノトリの安定した飛来地、採食地という観点から見ると、上から見下ろされるのを嫌がる。あのような環境を、見下ろされないような別の場所で創出していただければありがたい。

(3) 「生態系ネットワーク保全・整備拠点事業地区」における保全・整備の考え方(案)について

(4) 「生態系ネットワーク保全・整備拠点事業地区」候補地について

事務局

(「資料 3 : 「生態系ネットワーク保全・整備拠点事業地区」における保全・整備の考え方(案)について」、「資料 4 : 「生態系ネットワーク保全・整備拠点事業地区」候補地について」の説明)

部会長 先行施工地区のマコモの植栽について、植栽後のその後の状況について。

事務局 枯死はしていない。ただ、水鳥は確認できていない。

部会長 水鳥がすぐに来るとは考えていない。今後の保全や整備の方針の中に、マコモの植栽、採食地の拡大も入る、また、マコモの供給源も確保できている、と考えると良いか。

事務局 問題ない。

委員 米子市側の拠点について、米子市や地元住民と調整しながら進めていく必要があるのではないかと考えている。

委員 資料 4 の各候補地の意見要旨にある内容の中には、これまでの宍道湖側の候補地の中でも似た様な意見として出たものがあるということを再認識いただきたい。例えば飯梨川河口については人との調整、また、堤内もどのようにしていくかであるとか、いわゆる地域との共存を図っ

ていくであるとか、等。

鳥の動きの変化にも配慮が必要。例えば斐伊川の河口部は、最近、罫としての利用状況が変わって来ていて、ハクチョウが罫とせず湖心の方から飛来している、というような動きの変化も見られている。状況の変化に対しても臨機応変に対応していくのが良い。

委員 資料 3、高水敷の高さを色々な高さにして、多様な湿地環境を整備するというのは良い考えだと思う。気をつけなければいけないこととして、常に水がある場と一時的に水辺になる場とでは生き物の利用の仕方が異なる。神戸川の案では多様な湿地を作るという考え方を既に示した図面となっているので、そういった湿地と生き物の関係を念頭に置いて整備を進めてほしい。

委員 資料 3 の 7,8 ページについて、水鳥の食物資源として積極的にマコモを始めとする水生植物を増やしていくということは、マコモを利用する他の水生生物にとっても良い取組。一方でワンドには様々な機能が期待され、その中には植生がまばらな開放水面であることで期待できる機能もある。どちらかが良い悪いではない。神戸川で複数整備予定のワンドに期待する機能を検討し、植栽の有無や管理方法について検討していけば良いかと考える。

同じく資料 3、12 ページの、目隠しをするためにヨシ帯を保全するというものだが、ヨシは刈り取りをやめてしまうと年々芽生えが衰えるという記録があったと記憶している。冬場のヨシの高さを確保するのであれば、場所の想定だけでなく、管理の方法についても工夫いただきたい。

委員 工事を行ってかく乱を起こした直後は良い環境となるが、そうした環境を持続させるのはなかなか難しい。事業も徐々に、時間をかけて、様子を見ながら進めてほしい。

部会長 良好な環境の維持のためにはかく乱も定期的に必要であり、そのかく乱のためには例えば重機が円滑に行き来できる管理用道路などを設けておく等、そのための仕組みが必要。

委員 資料 3 の 8 ページ、神戸川の整備について、約 2km 区間で河岸の切り下げやワンドの整備等を進め、加えて、現存するワンドも保存していこうと考えている。出水した時にどういった影響が生じるのか、現存するワンドがなくなった時にどういった影響が生じてなくなったのかがわからなくなる。先ほど別の委員からもあったように、段階を踏んで徐々に整備を進めていくような形をとるのが良いのではないかと。

資料 4 の 5 ページ、飯梨川について、ワンドを作ってはどうかという意見があったが、飯梨川は砂河川で河床変動が大きく、ワンドの維持管理には工夫が要る。もしもワンドを整備するのであれば、流れを確保できる場所をきちんと選定して進めていく必要がある。

部会長 資料 3 の 3~6 ページの地図について、「現況が良好な環境となっている場所」を明示することはできないかと考える。放水路の神戸川への合流地点などはまだ塗られていないが、良好な環境が形成されている。こうした場所についても重要であることを示したい。

事務局 検討したい。

(5) 堤内地水田地区における取り組みについて

(「資料5：堤内地水田地区における取り組みについて(経過報告)」の説明)

委員 現在出雲市内で進められている大規模圃場整備の計画について、農家の方も、良好な環境を保全・再生し、地域づくりに活かしていくという考えは、実際に見ないとわからないのではないかと。例えば、佐渡市や宮城県の大崎といった先進地の視察などが考えられる。

(6) 指標大型水鳥類の生息地の保全・整備に関する今後の進め方(案)について

事務局

(「資料6：指標大型水鳥類の生息地の保全・整備に関する今後の進め方(案)について」の説明)

部会長 自然再生計画について、我々の共通認識を確認するという意味も含め、法律や「自然再生事業」との関係、計画の位置づけについて教えていただきたい。

事務局 法律に基づいて作成する自然再生計画と、法律に基づかない任意の自然再生計画があり、手続きが異なる。前者になると構成委員の選び方が公募で選ぶこととなり、後者では決め方や進め方がある程度自由になる。今のところは、後者で、ある程度スピード感をもって計画検討を進めたいと考えている。目的はどちらも「自然再生事業」を進めることである。

部会長 法律に基づかないやり方で進めるとした場合、この部会や上の協議会の位置づけや関連はどうなるか。

事務局 資料1の規約案に示した通り、この部会の中で計画を作っていきたいと考えている。

委員 資料6にある「圏域内外の大型水鳥類に関する知見・事例の収集・整理」について、先の議事5でも話題にあった大規模圃場整備の環境検討会との情報交換等ができないかと考える。どういった形で行うのが望ましいのかアイデアはないが、望ましい斐伊川河口の環境づくり、地域づくりに向けてできればと考える。

事務局 斐伊川河口域の国営大規模圃場整備について、あの辺りの大型水鳥類にとっての採食環境が、圃場整備を契機により良い方向に持っていけないかと考えている。ある程度ご理解をいただいている方もいるが、農業被害をもたらす鳥は敵である、という考えの方もいる。そういう人たちにも正しく理解をしてもらい、農村整備の進め方や農業のあり方について、我々と一緒になって良い方向に持っていきたい。そのために勉強会ができないかという話がある。我々の方も地元に出向いてお話をしたいと思っているし、鳥の専門家として委員の先生方にもご協力いただきたい。

また、委員の方のお手元には観光用のリーフレットを配布している。この辺りは多くの観光客が来るが、この地域にはこんなに多くの水鳥が来る、ということは知られていない。ホテルや旅館などにリーフレットを置いて、ここはそうした水鳥類がたくさん来る場所なのだとすることを知ってもらいたいと考える。

地域づくり部会との連携にもなると考えるが、広報の進め方について、良いアイデアなどありましたら是非ご提案いただき、いっしょに進めていければと考える。

その他

事務局

(「松江市の水陸両用機を核にした中海周辺地域の振興の取組み」についての話題提供)

委員 この水上飛行機は、米子水鳥公園の近くも通過している。高高度であれば鳥類に対する影響はゼロではないが小さい。音についてもあまり気にしている様子は見えない。同じころ、ニュースにもなったが、飛行船がこの辺りを飛んだ時は鳥類に対してかなりインパクトがあったようだ。大きなものがゆっくりと飛ぶ方が恐れるのではないかと考える。

委員 ここに示す調査の中身や結果は妥当かと思う。

ただ、ここに示されている離着水水域は、以前は結構なカモの群れが生息していた。静穏域であって、それなりのポテンシャルがある場所。水面に千単位や万単位のカモがいれば、離発着による影響は目に見える形になると懸念する。この時期、この状況ならば、という結果であり、元々は水鳥が多く飛来する場所であった、という認識は持っていただきたい。

部会長 今のところは実施期間が11月から3月は飛ばないということなので、地域振興に寄与していただく水面利用を進めていただければ、という考えで良いのではないかと思う。

委員からあったカモの群れの数の変化は、個人的に主因は食物資源の問題ではないかと考える。以前はホトトギスガイが多くいて、それを食べる水鳥も多くいた。海ガモが万単位で集中していた。

閉会

事務局 本日いただいたご意見を取りまとめ、地域づくり部会で議論された結果と合わせて、今年度中に実施する協議会で報告させていただきたい。次回の部会については、次年度改めてご連絡させていただきたい。

以 上